

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月27日
研究・研修課題名	3学会合同呼吸療法認定士資格取得のための研修
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション部
研究・研修責任者名(所属)	佐々木翔太(リハビリテーション部)
研究・研修実施者名(所属)	佐々木翔太、福谷早耶香、錦織航(リハビリテーション部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	佐々木翔太、福谷早耶香、錦織航(リハビリテーション部)
学会名(会期・場所)、認定名等	3学会合同呼吸療法認定士
演題名・認証交付元等	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会
取得日・認定期間等	取得日2020年1月1日 有効期限2024年12月31日
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

近年、患者の高齢化や高度医療の進歩により重症患者管理及び呼吸療法的重要性が認識されている。集中治療領域においては2018年より早期離床・リハビリテーション加算が新設され、呼吸理学療法をはじめとしたリハビリテーションの重要性が診療報酬制度上においても認められた。本院でも本加算の算定が開始され、ICUから理学療法を開始する患者数は増加している。加えて、本院周術期安全サポートチームにおいては、2018年より食道がん患者の術前集中呼吸理学療法を開始し、より一層術後呼吸器合併症予防に取り組んでいる。そのため、呼吸理学療法の対象となる患者は年々増加している。

3学会合同呼吸療法認定士は、呼吸管理を行う医療チームの構成要員を養成し、かつそのレベルの向上を図ることを目的とした資格である。本院では理学療法士10名、作業療法士1名が本資格を取得し、診療に従事している。

しかし、理学療法部門では全スタッフが集中治療領域の診療、及び呼吸理学療法に携わっており、呼吸理学療法対象患者の増加に伴い、更なる資格取得者の増員が喫緊の課題となっている。

この研修の目的は、本院の理学療法士3名が、2019年11月に行われる「第24回3学会合同呼吸療法認定試験」を受験し呼吸療法認定士の資格取得を目指すことである。

②方法

理学療法士3名が、2019年8月中に行われる3学会合同呼吸療法認定講習会を受講する。講習会に参加し、認定試験受験資格を取得後、11月中旬～下旬に開催される認定試験を受験し、合格することにより認定資格を取得する。

③成果

本院の理学療法士3名が、2019年11月に行われる「第24回3学会合同呼吸療法認定試験」を受験し呼吸療法認定士の資格を取得した。

現在、理学療法士は全スタッフの半数を超える13名が本資格を取得している。

周術期の呼吸理学療法やICUにおける早期離床、リハビリテーションにおいて、それぞれのスタッフは資格取得により得られた知識や技術を活かしながら診療に従事している。

また、3月からはICU専従スタッフに限定していた業務を、全てのスタッフで請け負うような体制も始まっており、資格取得の影響は部門の円滑な診療体制整備にも役立っていると思われる。